

平成30年度
第7回 理事会議事録

平成31年 1月18日

一般社団法人 全国鐵構工業協会

平成30年度 第7回理事会議事録

1. 日 時 平成31年 1月18日（金） 12：20～13：40

2. 場 所 鉄鋼会館 805号会議室

3. 構 成 員 15名

4. 出席構成員 15名（別紙 出席者名簿参照）

5. 議 事 次 第

(1)開会の辞

(2)定足数確認報告（定款第36条）

(3)会長挨拶

(4)前回理事会の議事録確認

(5)議案の審議

1) 第1号議案 全構協の「基本理念・行動指針」の制定について

2) 第2号議案 工場認定条件の保持状況確認の実施について

(6)報告事項

1) 高力ボルトの需給安定化に向けた対応について〔国交省 建設業課長等からの協力要請〕

2) トラック受渡条件におけるルールの確認とお願い〔日本鉄鋼連盟等からの協力要請〕

3) 委員会報告 ①品質管理委員会

(7)その他の事項

1) 構成員登録状況

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

3) 主要会議日程（H30年度）

4) 2019年度主要会議日程（案）

5) 支部報告

(8)閉会の辞

6. 議 事 要 旨

(1) 開会の辞

進行役の齊藤専務理事より開会する旨が告げられた。

(2) 定足数確認報告

本理事会は、全理事 15 名が出席されており、定款第 36 条（理事会の定足数）に基づく成立要件となる定足数が満たされている旨、齊藤専務理事より報告された。

(3) 会長挨拶

米森会長より「あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願いします。昨年は災害が多い年でしたので、今年は安泰であることを願っていた矢先に、地震や噴火が発生してしまい、新年早々心配しているところです。猪年ではありますが、猪突猛進するのではなく、足元を見据えて着実に前進できるよう、今年も頑張りますのでご協力をよろしくお願いします。」との挨拶があった。

(4) 前回理事会議事録の確認

第 6 回理事会の議事録について、齊藤専務理事が要点を読み上げ、確認、了承された。

(5) 議案の審議

1) 第 1 号議案：全構協の「基本理念・行動指針」の制定について

当協会の「基本理念・行動指針」を制定する案に関し、制定の背景・目的、検討の経緯、実施案及び周知方法が、議案書[理 30-7-議 1]<3-4p>ならびに[理 30-7-報 3] <21-22p>にそって、永井・品質管理委員会委員長より説明された。

本案に対する意見、質問等はなく、原案どおり承認された。

2) 第 2 号議案：工場認定条件の保持状況確認の実施について

国土交通大臣認定の工場審査時に確認された品質管理体制が、その後も保持されていることを確認するため、資格者充足状況等に関する中間確認を実施する案に関し、背景・目的、実施案の概要（確認する内容、対象構成員、確認ルート、実施時期 等）が、議案書[理 30-7-議 1]<5-10p>ならびに[理 30-7-報 3] <21-22p>にそって、永井・品質管理委員会委員長より説明された。

本案に対して以下の意見が出された。

- ・不適合が発見された場合の、是正までの猶予期間は、状況に応じて適正且つ柔軟に対応する必要がある。
- ・支部で構成員に意見聴取した結果、反対意見が多数であった。
- ・反対する構成員もいるだろうが、大臣認定制度の信頼性保持、及びそのために全構協は構成員に対して必要な指導を行っているという姿勢を示すことが重要である。

・鉄建協は、既に、その会員に対する中間確認を行っており、当協会も同様に行うことが必要である。

不適合が発見された場合に、全鉄評に通知するべきか否かについて、賛否両論出されたが、今後検討すべき項目として整理し、本案を承認することとした。

また、同日開催される全国理事長会において、本案を実施する旨報告することが確認された。

(6) 報告事項

1) 高力ボルトの需給安定化に向けた対応について〔国交省 建設業課長等からの協力要請〕

昨年夏から続いている高力ボルトの需給逼迫を受け、国土交通省が11月に「高力ボルトの需給動向等に関するアンケート調査」を実施し、その結果をふまえ「高力ボルトの需給安定化に向けた対応について」協力要請を、需要家側（当協会を含む建設業団体等19団体の長）及び供給側（日本鉄鋼連盟等の長）双方に対して文書で行ったことが、[理 30-7-報 1] <12-17p>にそって事務局より報告された。

2) トラック受渡条件におけるルールの確認とお願い〔日本鉄鋼連盟等からの協力要請〕

鉄骨製作工場に鋼材等の資材を搬入する際の、トラックドライバーが行う荷卸作業の範囲について、契約受渡条件の厳守を求める要請が日本鉄鋼連盟（物流政策委員会）及び全日本トラック協会からあったことが事務局より[理 30-7-報 2] <18-20p>にそって報告され、構成員に対する周知を徹底することとした。

〔周知すべき事項〕

○受渡条件が「トラック持込乗渡」の場合の、トラックドライバーが行う作業は、
・シート外し ・解縛 等、製品を受取れる状態にするまでとする。

〔 玉掛（補助を含む）、クレーン・リフト操作、開梱、バンド切断 等は受入側が行う。 〕

3) 委員会報告

①品質管理委員会

第1号議案及び第2号議案の説明の中で報告されたため省略された。

(7) その他の事項

1) 構成員登録状況

平成31年1月11日時点の構成員数は、前回報告時(11月15日)より2社増加し、2,216社であること等が、議案書[理 30-7-他 1] (24-28p)に基づき齊藤専務理事から報告された。

2) 着工面積と推計鉄骨需要量

平成30年11月の鉄骨推計需要は416.3千トン(前年同月比10.6%減)であることが議案書[理 30-7-他 2] (31p)により事務局から報告された。

3) 主要会議日程（平成 30 年度）

議案書[理 30-7-他 3] (p31) のとおり確認された。

4) 2019 年度主要会議日程（案）

事務局より議案書[理 30-7-他 4] (p32) のとおり提示され、事務局移転作業のため 5 月 6 日(月)を出勤日とし、4 月 26 日(金)を振替休日にする旨注釈された。

また、新役員選任決議を行う 2020 年度の総会を 6 月 17 日(水)、その開催決議を行う理事会を 5 月 28 日(木)と、各支部長選任時期に余裕を持たせる配慮をして例年より遅めに開催することが追加説明された。

5) 支部報告

〔北海道〕

- ・ 2018 年 1～12 月の共同積算対象量は 12.7 万トンで平年比 92%であったが、手持工事量は多く、ほとんどの H グレードファブは今年一杯埋まっている。
- ・ 価格も採算レベルが保たれているので、北海道物件を見積もる際は値崩れが起きないように配慮いただきたい。

〔東北〕

- ・ 仕事量は多く、ファブの手持工事量も十分で、H グレードは 1 年分、M グレードでも半年分は確保している。価格も問題ない。
- ・ 福島県では、原発事故処理にともなう放射性物質中間貯蔵施設に付随して減容設備とその建屋の建設需要が増加している。

〔関東〕

- ・ 見積量、手持工事量は多く、首都圏物件を手掛けているファブは特に多忙である。地元物件の発注状況は、悪いという訳ではないが、良くもない。
- ・ 手持工事量が多いが、工事遅れ、資材調達難などコスト高の要素が多く、収益を圧迫している。

〔北陸〕

- ・ 仕事量が多く多忙であるが、資材調達難の影響が出ており、100 トン程度の地元物件でも調達ネックによる納期遅れを懸念して受注を躊躇するゼネコンもある。首都圏物件中心のファブは問題ないが、地元ゼネコンに依存しているファブへの影響が危惧される。

〔中部〕

- ・ 稼働率、手持工事量ともに問題はない。見積件数はやや減っている感はあるが、受注歩留まりが上がっており、受注量には影響ない。
- ・ 高力ボルト不足に対する認識が浸透しており、事前の策を講じているため大きな混乱はない。メーカーからの調達力は、問屋間で差があるようだが、愛知県の主要な問屋では必要な在庫を確保できている。

〔近畿〕

- ・工事量は多く、稼働率が 100%を超えて、仕事を捌ききれないファブもある。Hグレードファブは1年～1年半の仕事を確認している。
- ・工事遅れへの対応でコスト高になり、多忙ではあるが収益は上がらない。
- ・2025 年の大阪万博開催が決まり、関連施設の建設需要への期待が高まっている。

〔中国〕

- ・県により多少の差はあるが、概ね順調である。
- ・価格は良いが、コストアップ要因が多く収益を圧迫している。
- ・2 月 12 日に、「標準貨物自動車運送約款の改正」について中国運輸局を招き勉強会を開催する。

〔四国〕

- ・全県とも好調である。特に、地元の大手製造会社の設備投資関連の物件が増えている。
- ・そのような中、建方職人の不足が問題になっている。

〔九州〕

- ・仕事量は多く、堅調である。特に、沖縄は、商業施設、宿泊施設を中心に、地元ファブの製作能力を超える需要があり、九州のファブも対応している。
- ・高力ボルト不足の影響は小物件に顕著に生じており、構造変更する物件も現れ、S 造を手控える動きもみられる。S 造のマイナスになる情報の過度な喧伝は控えるべきであると考えている

(8) 閉会の辞

以上をもって、審議事項、報告事項、その他の事項等、予定された全ての事項が終了したので、議長は閉会を宣し散会した。

以 上

(別 紙)

出席者名簿

会 長	米	森	昭 夫
副 会 長	村	山	功
〃	永	井	毅
〃	高	橋	伸 和
専務理事	齊	藤	眞
理 事	中	村	泰 男
〃	渡	辺	勝
〃	大	竹	良 明
〃	西	村	仁
〃	大	島	嗣 雄
〃	伊	藤	佳 治
〃	山	本	泰 徳
〃	井	原	常 裕
〃	神	崎	隆 一
〃	大	橋	利 勝
監 事	村	上	眞 樹
〃	野	田	博 文

理事総数	15名	うち出席者	15名
監事総数	2名	うち出席者	2名